

「ライフサイエンスデータベースの統合・維持・運用の在り方」を踏まえた新たな組織と期待される機能

I 新たな組織

1 JSTが、新たな組織を設置。

- ROIS-DBCLSを始めとする関係機関各々が持つポテンシャルを最大限活かす
- 柔軟な運用を可能とする仕組みを構築し、DBの統合・維持・運用を図る

2 JSTにおいてDB運営の基本的な内容を定める計画の策定に向けた検討。

- 広く研究者コミュニティの意見を踏まえる
- 産業界を含めた研究者コミュニティの多くの利用者からのニーズに的確に応えられるように配慮（DBは利用されることで一層価値が高まる）
- 現在の「統合DBプロジェクト」で培われた成果を効果的に引き継ぐ

3 新たな組織が設置された後の運営

- 広い産業界を含めた研究者コミュニティの意見を十分に反映
- 透明性、公平性、客観性に十分配慮したオープンな運営体制を確保
- DBを有する関係機関とのネットワークを密に図り、利用者本位のサービス提供を行う
- 総合科学技術会議における検討結果も踏まえつつ、他機関との効果的な連携を重視
- 統合DBの整備に積極的に協力する研究者コミュニティに開かれた運営

II 期待される機能

1 ライフサイエンスDB整備(統合・維持・運用)を担う機関の基本的な機能

- DBのカタログ作りや関連DBの横断的検索
- 他機関と連携し種々のDBを将来的には日本全体として一つに集約し、継続的・主体的に運営する機能
- 統合化や高度な検索のための技術開発(インデックス、辞書、データフォーマットなどの構築)
- 利用者が真に使いやすく新たな知識発見を可能とする統合DBの構築を目指す
- 分子データのみならず、文献や特許の情報についても併せて統合化を進めていく

2 留意すべき機能

- DB統合化に向けた事業に徹する(自らの生物学的知識の発見につながるようなDB開発者と競争する研究開発機能は持たない)
- 個々のDBやデータの権利関係処理、個人情報の秘匿のための措置などの法的、制度的な問題への取り組み
- DB開発者に対する支援とDB利用者に対する支援という2つの機能の両立
- DB開発コミュニティと産業界も含めたDB利用コミュニティが積極的に協力する体制の構築

3 「統合DBプロジェクト」承継に当たっての留意事項

- 「統合DBプロジェクト」により培われた成果や実績を継承
- これまでに育成された高度な専門性を備えた人材が効果的に活かされる環境に留意
- 研究者コミュニティの意見を十分に反映できるような開かれた運営に留意
- 高度な専門性を備えた人材の継続的な育成とといった機能の重要性に留意
- ライフサイエンスDB整備(統合・維持・運用)に係る事業に携わる人材の評価システムを構築し、大学等と連携して、そのキャリアパスを考えていく